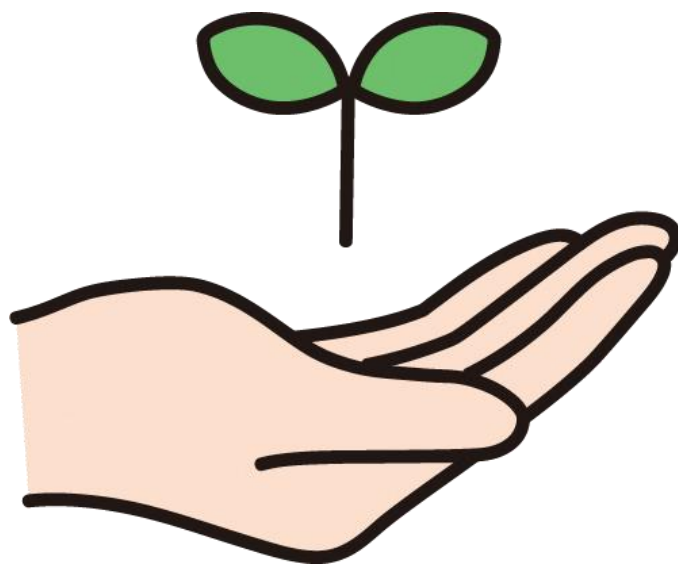


人を育む社会教育のあり方
～ 人材の見いだしとその育成 ～

【提言】



令和6年3月28日

第20期福知山市社会教育委員会議

目次

はじめに	2
1. 提言のテーマ選定における議論の過程	3
2. 「地域課題に積極的に取り組む人材」の事例.....	6
＜事例1 子育て支援 NPO の活動から＞	6
＜事例2 大江まちづくり協議会と大江学園の協働活動から＞	6
＜事例3 読み聞かせの活動から＞	7
＜事例4 地域と学校が協働で取り組んだ中学校の再建事例から＞	8
＜事例5 人権擁護委員の活動から＞	9
＜事例6 自治会における活動事例から＞	9
＜事例7 民生委員、児童委員の活動事例から＞	10
3. 事例から見える「地域課題に積極的に取り組む人材」の人物像	11
4. 人を育む社会教育のあり方について ～社会教育施策への提言～.....	13
（1）地域公民館講座に人材育成を主眼とした継続的な講座を開設する.....	13
（2）公民館活動を通じた人材発掘をする	14
（3）公民館を人とのふれあいの場として身近に感じてもらうようにする.....	15
（4）子どもを中心としたリーダー作りをする	15
（5）地区公民館や NPO への活動支援を行う	16
あとがき	18

《 巻末 》

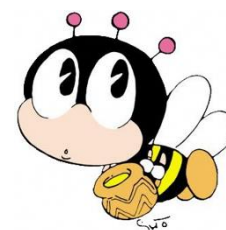
福知山市社会教育委員会議のこれまでの提言等
第20期福知山市社会教育委員名簿

第20期福知山市社会教育委員会議は令和4年6月23日から第1回の会議を開始し、これまで議論を重ねてきた。席上において特に多くの意見が寄せられたのが、新型コロナウイルス感染症の流行によって社会教育活動や地域社会のコミュニティ構築に関する活動が制約を受け、その弊害が顕著に表れてきた現状を懸念する声であった。

他方で、「ICT」等を活用した非対面での活動では気づけなかったような成果もまた多く聞き及んでおり、コロナ禍で培った経験を基に新たな社会教育活動が生まれつつある現状もある。

令和5年5月8日から感染症法上区分が2類から5類の変更となり、社会も少しずつコロナ禍以前の状況に戻りつつあるなか、本会議での意見交換の主題は、コロナ禍において制約を受けてきた社会教育活動を今後いかに支えていくかという点に自ずと議論が集まり、その中でも社会教育活動を支えるための「人材育成」に関する議論が中心となった。

「地域課題に積極的に取り組む人材」を育成する社会的なニーズは高いものの、「人を育む社会教育のあり方」とはどのような活動なのか、また、「地域社会が求める人材」「地域が好きになる人」或いは「地域を担ってくれる人」とはどのような人達なのか、一言で人材育成と言ってもなかなか難しく議論も停滞しがちであった。そこで、現在において積極的に社会教育活動を実践している人物に着目して、これらの人たちがなぜそのような活動を始め、続けているのか、その共通点を探ることで「地域課題を積極的に取り組む人材育成」のあり方を検討することとした。こうした議論の結果をまとめ第20期社会教育委員会議の提言とした。



1. 提言のテーマ選定における議論の過程

提言の本論に入る前に、今期の社会教育委員会議にて各委員から寄せられた意見について、関連性のある意見ごとに集約して以下に記述する。

人材育成に関すること

- 人材育成の場や機会づくり。自分達の地域に関心を持って取り組む姿勢が必要。
- 地区の活動等から見て熱心な人が多い、自らも参画して対話している。
- 役のたらい回しがみうけられる。自治会等、人とのかかわりを生かす。
- 頼りにして参画してもらおう。
- 地域での人材育成の仕方。
- 他人任せから自主的な活動へ。共感と行動がともなわない。
- 公民館の活動主体が高齢化、またその手助けも引き受け手も不足。

学校と市民協働に関すること

- 某中学校の再生事例などは参考になる（後記述あり）。
- 家庭や児童を孤立させない。地域も学校づくりにかかわる。
- 学校の中に入るボランティアはどうか（読み聞かせ等）。
- SOSレターは社会のつながり、人権を考える、温かい人を育てる。
- 相談窓口の一本化（縦割りをなくす）。
- 学校教育の場を活かす（家族団らんの日など、子ども達が放送している）。
- コロナ禍世代が高学年になりその成長を見守る状況。
- コロナ禍世代の繋がる場が必要では。

コロナ禍での知見を活かすこと

- コロナ禍のロスをどう取り戻すか。
- 行事などの洗い直しや活動のあり方の見直し等。
- 社会での小さな事柄に気づきが大切（近所や子ども達の様子に注意）。
- 人とのかかわりを大切にして、広げていく。
- コロナ禍以降子育てが孤立しがち、一人でネット依存する傾向。
- 人とのコミュニケーションが不足、コロナ禍でより顕著な傾向に。
- コロナ禍での対応を生かすための情報の窓口が必要（SNS等の活用も進める）。

提言の振り返りに関すること

- 提言の振り返り（生かされているか）。
- 家族団らんの日（再啓発、見直し等）。
- 家族団らんの日には子ども達が町内放送して啓発している。
- 市のホームページに関して（検索の容易化、子ども達も使えるホームページやアプリの活用）。

地域交流に関するもの

- 三和は公立大と交流している。
- 近所の清掃活動などを通じてコミュニケーションをとるなど行事には積極的に参加するようにしている。
- 自治会等の人とのかかわりを生かす。
- 多世代交流スペース（ソフト・ハード両面）。

防災活動に関するもの

- 災害の課題など取組姿勢が他人或いは市任せになりがち、自立した活動へ。
- 三和地区では防災アンケート実施。地域事情に合わせて行う。
- 民生委員と自治会で避難マップ作成した地区もある。
- 他力から自主的な活動へと主旨は理解しているが行動がともなわない。

情報に関するもの

- 市のホームページと情報の中味について（得たい情報が容易に入手できにくい）。
- 福知山市のホームページにも子ども用のホームページを作成し、更に充実を図る。
- ふくちやま電子図書館の利用が全国ナンバー1。市の電子図書の利用率は素晴らしい。

社会教育活動に関すること

- 社会教育活動内容に、課題に取り組む活動を重点化して取り入れるよう配慮する。
- 地域課題に対し取り組みが弱くなっている、課題を講座などにに取り込む。
- 社会教育の重点資料を再確認したい。
- 公民館講座に参加して「大人がかかわれば、子どもがかかわれる、地域がかかわれる」に共感した。

社会課題に関すること

- ヤングケアラー問題
- コロナ禍で実態がより分かりにくく、地域との関わりが更に希薄になりがち。実態が分かっても何ができるのかと考えさせられる。社会教育のなかで、社会総がかりでその家庭を孤立させないような取り組みや、手法など社会教育の視点から考えて行けるのではないか。
- 出生率と魅力的な地域社会のあり方。
- 認定こども園の活用

以上のように、各委員から社会教育活動に関する多様な意見や所感が述べられてきた。いずれの内容も今日的に重要な課題であるが、第20期社会教育委員会議においては、これらの課題に共通する事項として「地域課題に積極的に取り組む人材」をどう育てて行くのかという点に着目し議論を進めることとした。また、多様な技能を有している地域の人材に焦点をあて、その力を発揮・活用してもらえるような社会教育活動のあり方も検討し、「人材育成を主とした社会教育活動」が展開できる施策について提言を行うこととした。

2. 「地域課題に積極的に取り組む人材」の事例

「地域課題に積極的に取り組む人材」の育成のあり方を検討するにあたり、今現在において社会教育活動を実践している人物・団体に着目し、その共通点を探ることとした。各活動を行っている方々に社会教育委員会議から「活動の概要」「活動をはじめた動機」「これからの人材育成について」という点について記述を依頼し、資料を収集した。以下に、各事例についてそれらの資料をもとに取りまとめた。

<事例1 子育て支援 NPO の活動から>

○活動の概要

- ・子育て支援に関わるうちに、NPO 法人として運営することを決め団体を立ち上げる。
- ・保護者の話を聞き取り必要な支援に繋げるほか、親子で交流できる機会や保護者同士で交流できる機会を企画・運営している。
- ・近年では、学校に乳児とその保護者を連れていき、中高生と交流する「赤ちゃんふれあい学習」という事業も行っている。その過程で助産師を志す生徒もでてきた。

○活動をはじめた動機

- ・自身の子どもを連れて市内の子育てサークルに入ったと同時に、福知山市生涯学習課の子育てひろばのボランティアスタッフになったことが始まり。
- ・自身が不登校の時に、担任の先生と自身の母親との連携やサポートに助けられた経験から、子育てには周りの支援が必要だと感じた。
- ・以前、行政サービスで実施されていた子育てひろばに参加して誰とも話せず寂しい思いをした経験があった。その時の思いがあったからこそ、寂しい思いで帰る人がいないように、楽しい気持ちで帰れる人を増やしたいという思いで約30年以上現在の子育て支援活動が続いている。

○これからの人材育成について

- ・高校での「赤ちゃんふれあい学習」では、生徒は家庭や周りの人に支えられ生活していること、命の大切さや子育てについて学び、将来の自分のあり方について考える機会となる。同時に参加している保護者にとっては、中高生とのふれあいを通じて、自分の役割や成果を認識し自己肯定感を高めることができるなど、双方に良い効果があり次に繋がっていく。

<事例2 大江まちづくり協議会と大江学園の協働活動から>

○活動の概要

- ・地域から集められたペットボトルを使ってイルミネーション活動である「大江町イルミネーション事業（大江ゆめテラス）」の実施。
- ・活動の名称も大江学園の児童生徒会で公募。ペットボトルに貼るセロハンに児童生徒がメッセージや絵を描き、展示が行われた。パソコン部によるチラシのデザインや、児童生徒会の代表が点灯式に参加し挨拶するなど、地域と学校が共に活動を進めた。

○活動をはじめた動機

- ・令和3年度、大江学園の児童生徒会がアルミ缶回収によって集めた収益金を、新型コロナウイルスの流行で活気がなくなっていく町のために使ってもらおうと、福知山市社会福祉協議会大江支所に寄付したことがきっかけ。
- ・地域を元気づけられることができないか福知山市社会福祉協議会大江支所の職員で協議がスタート。大江町内の団体に声をかけ「大江を元気づけるプロジェクト実行委員会」を発足し、企画に関する議論が進められた。

○これからの人材育成について

- ・学校と地域の協働。学校から地域、地域から学校、アプローチの方法に違いはあっても、お互いが連携し活動していくことで、これからの人材育成や地域を活性化していく人の人材育成などに繋がっていく。
- ・学校が全部背負い込むと無理となる。負担が大きくなるような形で地域と学校がつながる機会を増やして行くことで、結果として地域で子どもが育つ、地域と学校がつながり協働の仕組みが自然に出来ていくような仕掛けづくりが必要である。

<事例3 読み聞かせの活動から>

○活動の概要

- ・ブックスタートを行うボランティアグループ、読み聞かせ活動を行っている人たちの横のつながりとなる勉強会などを立ち上げ、運営している。
- ・小学校を対象に、地域のボランティアによる絵本の読み聞かせを実施。また、4か月児健診を受ける赤ちゃんに絵本を市から1冊プレゼントされているが、私たちボランティアが、健診時にその絵本を読み、絵本を読んであげることの大切さと共に、地域で子育てを応援しているということを伝えている。

○活動をはじめた動機

- ・子育てをしているときに子どもにどんな本を読んであげたらいいのか困っていたこともあり、大江町で開催された子どもと本に関する研修会に参加したことがきっかけ。本は好きだが大人の本にしか興味がなかった自分にとって、新しい世界の入り口となった。
- ・研修会で出会った地元の人たちと、現在に至るまで子どもと本をつなぐ活動を共にすることになった。また、自分の子育ての経験から、読み聞かせをやってよかったと自信を持って言えるので、人にも薦めたいと思い活動をつづけている。

○これからの人材育成について

- ・最初は「子どもの本や絵本が好きだ」という全く個人的な興味関心であったものが、視野を広げて行動を起こすことによって活動の持つ意味は変わっていった。
- ・ネットワークが重要。①他のグループと交流することによって、活動に関する情報交換ができる。②あるグループの発案がネットワークの協力によって形となって、より大きな成果が上がる。③ネットワークから、新しいグループが立ち上がり、新しいメンバーの参加につながる。

<事例4 地域と学校が協働で取り組んだ中学校の再建事例から>

○活動の概要

- ・荒れていた学校の現状について学校・PTA・各グループ代表と協議を行い、学校再建に向けて様々な活動を実施。
- ・最初の取り組みとして、学校が抱える課題や、目指す子ども像を地域住民と共有するため、学校を公開することを実施。学校公開がきっかけとなり、地域住民から学校運営に協力する声が寄せられるように。
- ・新聞折り込みチラシによる学校ボランティア募集によって、花づくり、学習支援、学校行事支援、登下校の見守り、図書整理、教育相談、破損箇所修繕、折紙、囲碁将棋、クラブ支援などの希望が寄せられる。
- ・活動を進めるにあたって予想される課題に対応すべく、旧児童相談所長や更生保護婦人協会会長、民生児童委員、旧PTA会長、退職教師などに個別に協力を依頼。
- ・以上のような準備を経て、例えば以下のような活動を実施。
 - …花づくり活動：地域住民と生徒との協働による枯木の撤去および苗植えの実施。
 - …あいさつ運動：登校路でのあいさつ運動。個人の取り組みから地域全体の取り組みへ。
 - …「おやじの会」：学校の補修作業や清掃などを行うボランティアグループの立ち上げ
 - …「オープンキャンパス」：文化祭をオープンキャンパスと銘打ち、地域との交流の場へ
 - …部活動の活動による地域の施設訪問：演劇部・合唱部・ブラスバンド部等による地域施設への訪問と公演活動の実施。
 - …地域の食堂・企業との協働活動：生徒会と食堂が協力して新メニューづくりに挑戦したり、企業クラブが部活動の指導を行うなど。
- ・これらの活動を通して、生徒は見守られ感や自尊感情が高まり、いじめや暴力が減少した。また、学力の向上とともに、卒業後の進路意欲も高まり、卒業時の進路未定生徒がいなくなった。

○活動をはじめた動機

- ・学力は低く、いじめや不登校生徒が多く、生徒達が安心して学校生活を送れない状況が続いていた。教師の学校改善に向けた努力も成果につながらず無力感、疲弊感を募らせていた。
- ・地域には、学校内外で非行を繰り返す子らへの家庭批判や学校・教師批判をする住民、子どもの将来や地域生活の不安を行政に訴える住民がいた。「何とかせんと」という思いがありながら何もできないことにジレンマやもどかしさを感じている住民やPTA、同窓会など、学校再建に向けた熱い思いが地域にあった。

○これからの人材育成について

- ・地域、学校、住民、PTA、同窓会など関係者が当事者意識をもち何が課題なのか、何が問題なのかなど、現状を共有するとともに、地域で目指す子ども像、何を実現していくのか、というビジョンを共有することからはじまる。
- ・学校と地域の信頼関係を基盤として、地域住民が参画し、共有した目標に協働活動で進めていくことが必要。
- ・子どもの教育の場は学校だけではないし、学校で起きている問題の背景には、学校外で

の子どもの生活がある。今必要なのは、学校内外の人々が子どもの実態や教育のあり方についての関心を共有したり、課題解決のための協働が必要

<事例5 人権擁護委員の活動から>

○活動の概要

- ・「SOS ミニレター」という、先生や友達また親にも相談できないことが相談できる取り組みの実施。手紙が各学校に配布され、子どもがその手紙に相談したいことを書いて投函し、人権擁護委員が法務局の職員と相談しながら返事を書く活動。

○活動をはじめた動機

- ・福知山に戻ってくるまで転勤族で、それまで地域や学校の役は引き受けたことも、声をかけられたこともなかった。福知山に戻ってきて、子どもが幼稚園に入園する際にたまたま知り合いがいて PTA の役員をやらないか声をかけられたのがそもそものきっかけ。これをきっかけに知り合いが増えればいいかなとも考えた。
- ・幼稚園の役員を引き受けたことがきっかけとなり、その後いろいろな役をお願いされ、逆に自分からお願いすることもでてきた。人権擁護委員を引き受けたこともその一環。

○これからの人材育成について

- ・地域社会は様々な基本的人権にかかる問題や事象が人々の生きる営みのなかで無意識に起因していることも多いと思われる。子どもたちを守り、人を育む社会のあり方が問われているのではないか。
- ・福知山市には「市民憲章」をはじめ、「家族だんらんの日」や「自分のために・社会のために・人のために」を掲げ共に幸せを生きる目標も存在する。教育のまち福知山を实践する啓発活動に生かせる、生かしていくことが大切なのは。

<事例6 自治会における活動事例から>

○活動の概要

- ・40～50代の働き世代で役員を構成し活動を行っている。仕事や役を終えられた世代からは、運営についてはすべて一任され、これまで歩んでこられたことを守りつつ、現状にあった事業の見直しを行い、住みよいまちとなるよう進めている。
- ・200世帯もの住民がいるにも関わらず役員の成り手がなく、同じ人で繰り返している状況もある。近所付き合いの希薄化、総会などへの参加もごく一部にとどまり、積極的に参加すると役が回ってくるからと避けられている方もいると聞く。
- ・それぞれの負担が減るように、仕事を分担したり、会議の時間を減らすために SNS・文書の利用や複数の会議を1回にしたりしている。また、成果を達成した喜びを感じてもらえるように様々な工夫をできる範囲内で行っている。

○活動の動機

- ・この地に移り住んだ6年後に輪番である組長が当番にあたり、行事や飲み会に参加する中で声がかかりスタート。
- ・役を引き受けたことで初めて、今までの役員様のご苦勞や自治会組織の重要性を知った。今までは誰かがやってくれると安易な気持ちだったが、ここに住み続ける以上はいつか

自分もできる範囲内で協力しないと、とに気持ちが変化した。

○これからの人材育成について

- ・これからは組織の見直しや、リーダーにならない理由を探り、その原因を解消していくことも必要ではないか。負担を軽くし誰もが活躍できる魅力ある組織にすることで支え合い互いに成長できればと考えている。

<事例7 民生委員、児童委員の活動事例から>

○活動の概要

- ・赤ちゃん訪問、登下校の見守り、母父子家庭の支援と行政への連絡、学校や園の状況把握、ひとり暮らしや高齢者世帯への日々の訪問と支援、老人施設、デイサービス等との訪問や意見交換、身体障害者との行事参加、包括支援センターとの連携等を行っている。4ヶ月の赤ちゃん訪問をする中で、赤ちゃんのすこやかに育っている様子を見させていただくことで、地域の見守り役として継続した支援の大切さを認識することが出来た。毎月15日に集いを開催し「異年齢のサロン」を行う中で、高齢者は母親の子育ての気持ちを知ったり、赤ちゃんは高齢者に抱っこしてもらったりなど、微笑ましい様子が伺えた。
- ・ひとり暮らしの訪問は毎月行っているが、年に1回は社会福祉協議会と協働で今年は箱ティッシュや歯磨き粉等など袋に詰め、お困りごとのアンケートもとりながら訪問活動をしている。早い時間から待っておられるひとり暮らしの方と笑顔で接する楽しみもある。
- ・老人ホームの花壇整備は継続して年3回行っている。季節の花や、さつま芋を植え、秋には利用者の方と、芋掘り、焼き芋茶和会で楽しんだ。プランターの花も70鉢を鉢の中心にチューリップの球根、まわりにビオラを植え長期に楽しんでいただく鉢を、老人ホーム、デイサービス、学校、認定子ども園、児童館に毎年プレゼントをしている。水やり等は学校の子どもたちがお世話してくれている。
- ・身体障害者の集いは春、秋の年2回集い、ボッチャをしたり、ゲームで交流することで、触れ合うことの大切さをそれぞれの方が認識し、また「次も会いましょう」と笑顔いっぱいの時となっている。

○活動の動機

- ・私の動機は、父が長きにわたり、民生児童委員をさせていただき、その背中を見て過ごしてきました。家族であっても守秘義務があるので、内容を聞くこともなく会議や見守りや支援に行く姿を送る日々であった。
- ・平成22年に、主任児童委員のお声かけをいただき、仕事も子どもに関する仕事を30年以上勤務してきた経験と、父の後押しもありお受けすることになりました。最初は地域の子どもの状況の把握や学校、保育園との調整役として関わってきた。
- ・平成23年から、民生委員、児童委員と福知山市の子ども政策室と協働事業として、4ヶ月の赤ちゃん訪問をするなかで、虐待の未然防止や、母子、父子世帯の状況や必要な方には、継続型支援を行っている。現在は少子化もあり、人間関係も取りづらいこともあるが「ひとり」が地域の中で大切にされ「助けて」が言える関係づくりの構築が必要であり、安心してすごせる居場所作りや、子どもたちを支える地域づくりの活動や支援

を今後も行っていききたいと思う。

○これからの人材育成について

- ・民生児童委員、主任児童委員は地域のつなぎ役として、地域の人々の困りごとや、悩みごとで相談にのり、専門機関へ連絡をしたり福祉サービスの情報提供をしている。なり手不足も言われる中、民生児童委員の役割を地域の方々にわかりやすくお伝えすることも大切なことだと思い、地域の中で欠員をなくすことも課題である。

3. 事例から見える「地域課題に積極的に取り組む人材」の人物像

前章で整理した事例をもとに、「地域課題に積極的に取り組む人材」とはどのような人物像であるのか整理を行った。この人材像を整理することで、地域社会が求めるリーダー像を明らかにできるのではないかと考える。

<事例から見える「地域課題に積極的に取り組む人材」の人物像>

○専門性

- ・資格取得等の専門知識がある
- ・情報発信力と情報収集力
- ・常にスキルアップに努めている
- ・子ども達への指導力（学業外）

○他者を巻き込み調整する力

- ・同士とタッグを組む（説得、共感）
- ・地域社会と学校など協働のあり方など、連携するコーディネーター力

○行動力

- ・自身の体験を通じて、問題意識を持ち自ら具体的な行動が出来る力
- ・あるべき姿を追い求める姿勢（情熱）

○人間力（資質）

- ・相手の立場を思いやる包容力（人権の尊重）
- ・地域行事と子ども達の融合をはかる力量
- ・人や物事に対する洞察力
- ・リーダーシップ力（課題の共有化が図れる人）
- ・他者や地域から期待される人間力（よろず相談窓口、頼りがいのある人）

○調整力

- ・行政（関係団体）との折衝力（働きかけや提案など、要請できる力）
- ・企画力（ボランティア結成等）

○対応力

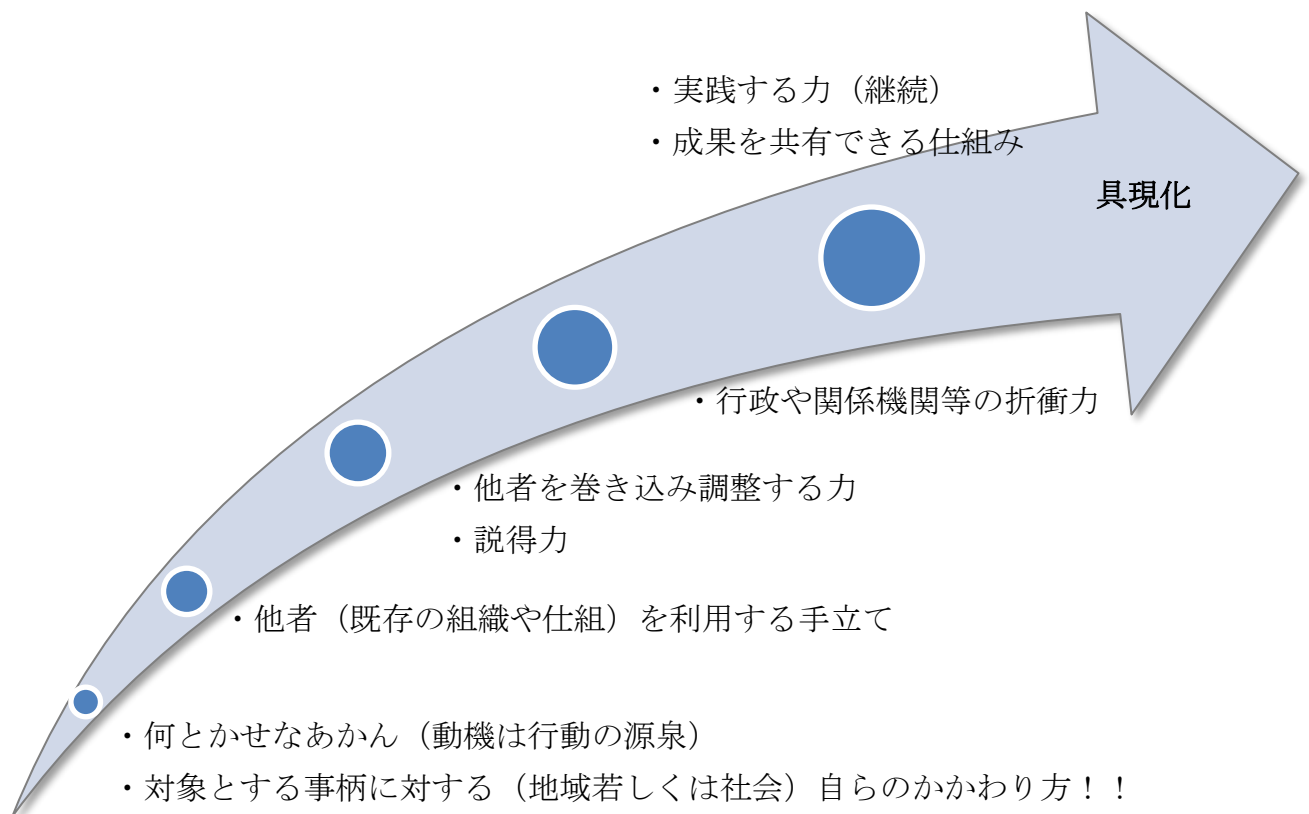
- ・システム化
- ・組織、制度を超えて対応する力
- ・成果が感じられる仕組み（組織運営・継続的に進められる体制づくり）
- ・発想の豊かさ

○地域のことを良く知る

- ・人と人がつながる場作り
- ・目配り、気配りする力

事例からは以上のような人物像が読み取れる。課題や目標に向かい具現化を試みて大きな成果を上げられていることには敬意を表するところである。

<人物像と具現化へのプロセス>



地域或いは社会が求める人材について、概ね何事を成すにせよ必要な資質として前述のような方が求められているのではないかと。

本会議としては社会教育として何を進め、どのような仕組みにすれば有為な人が育めるのか、或いは潜在的な人材の発掘ができるのかに焦点を絞り、次章の提言を検討した。

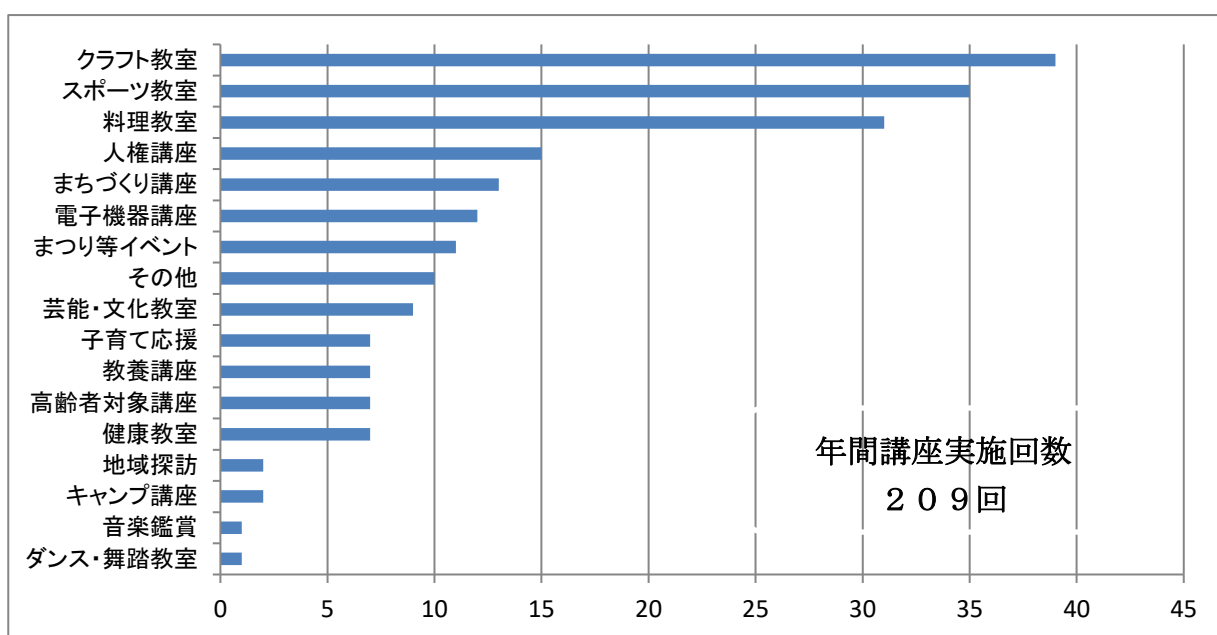
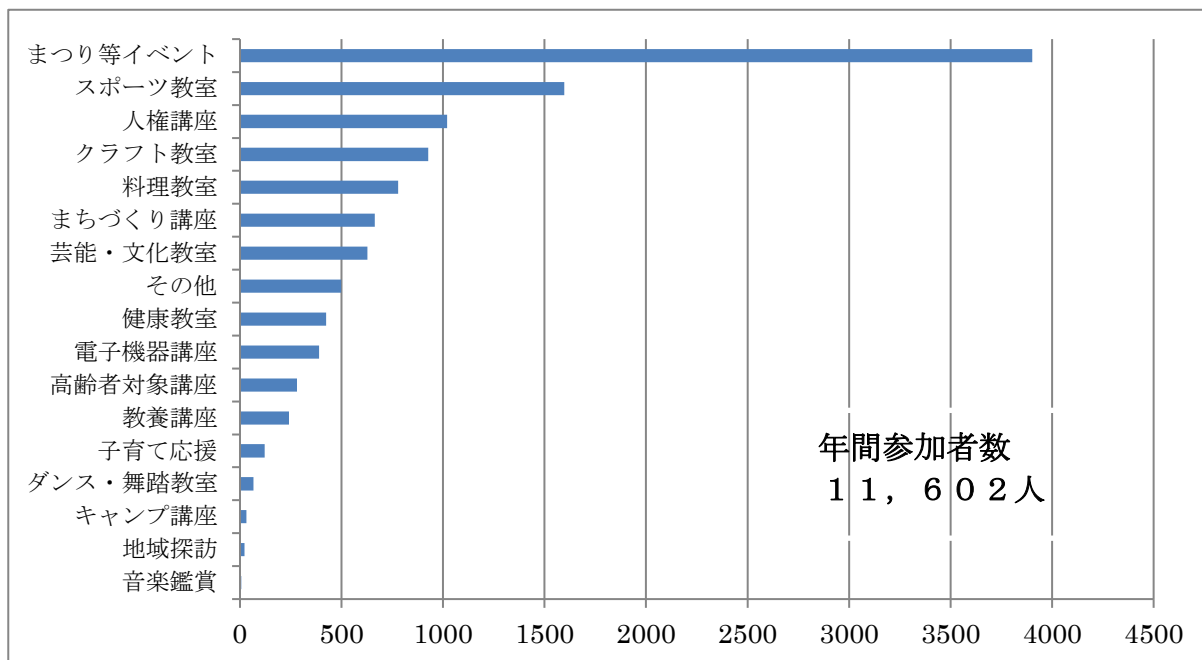
4. 人を育む社会教育のあり方について ～社会教育施策への提言～

(1) 地域公民館講座に人材育成を主眼とした継続的な講座を開設する

地域公民館では実に様々な講座や教室、イベントなどタイムリーな運営が行なわれており、関係者の皆様には敬意と感謝を表すものである。

下表は令和4年度の地域公民館の講座等の活動内容を表わすグラフである。年間参加者数11,602人・イベント数209件と多くの方が参加、利用されている。

表は講座等の実施回数を表わす。



教養的な講座もあるが、概ね物づくりやスポーツ、料理など楽しく行える講座が人気もあり活発な活動が読み取れる。当委員会として人材育成の観点でみた活動内容に該当するのは「まちづくり講座」13回、内訳として

講座名	回数	参加者数
地域づくり講座・まちづくり講座 まちづくり担い手育成講座	4	349
地域の防災・減災を考える講座・防災講座 命を守る防災講座・地域の防災意識	5	213
ふるさと探訪・ふるさと講座 歴史探訪教室	4	102

講座全体の6.2%、参加者数の5.7%に相当するのが人材育成に係る講座参加者となっている。

近年地域社会における人と人とのつながりや連帯感が弱まり住民同士の希薄化が進む中で、地域の教育力や福祉力、地域課題の解決力の低下、地域の文化や伝統の継承力の低下など、様々な問題を引き起こしている。その中で社会教育システムの中心である地域公民館の活動に、人材育成に特化した講座や継続的な人材育成の制度を導入したらどうであろうか。また、参加者を募る際は「その志しのある方」を推薦するなどし、参加者があればから「積極的に人材の発掘を促す」仕組みづくりが必要ではないかと考える。講座と言えばハードルが上がるが、地域課題をお茶しながら語り合うとか、車座講座（出前講座）など取り入れることもひとつの方法ではと考える。

（2）公民館活動を通じた人材発掘をする

公民館には様々な情報が集まり、また人材に関する蓄積も多い。例えば何かの行事を行うにあたっては、公民館の役員が行事計画に則りその運営にあたる。多くは自治会からの指名や、持ち回りで地区毎に役員が選出されそれぞれ専門部の担当になる。概ね一年から二年交代制で務める。公民館の規模にもよるが大きな地域では専門部員だけでも150名を軽く超える。地区公民館から地域公民館に情報があげられ運営を担う。地域公民館運営連絡協議会が主体で地区を結ぶかたちになっており、地域公民館の主事さんには多くの人材情報が集まる。顔も名前も解らない人達が集まり進めていくなかで互いに交流を深めながら手探りで進めている。

活動を通じて自ずと「あの人なら」「この方に」と、何かと「お願いしてみたくなる方」が存在するのはいつの機会にもあり、このように感じられる方こそ地域にとってとても有用な人材ではないだろうか。

一般的に公民館活動は行事が終われば自ずと関係性は薄れるが、「活動そのものが地域人材の発掘の機会」と捉えて部員でなくても、公民館から何かの機会（講座や研

修会、行事のお手伝いなど)を捉えて、活動に携わってもらふ機会を作ることが積極的な人材登用と育成に繋がって行くのではないだろうか。地区を超え様々な人が集う公民館故、有意な機会を逃さないことに尽きるのではないかと考える。

(3) 公民館を人とのふれあいの場として身近に感じてもらうようにする

公民館は地域住民にとって最も身近な学習拠点として、社会教育の振興に大きく貢献していることは周知の通りである。ここでは公民館の持てる役割やその意義を少ななれて、公民館に親しみを感じ、度々気軽に足を運んでもらえるような仕組み(来館者を増やす方法として)を提案してみたい。

遊び・健康・ふれあいの場作り

- ・公民館の敷地内をウォーキング起点とする(パンフレットで広報)
(身近な散策コースを案内する。地域の文化遺産や自然を加味する)
- ・毎月一回決まった曜日に行く(例えば、家族だんらんの日と合わせ)
- ・その日は体育館利用や施設見学はフリーとする(可能であれば、施設開放)
- ・屋外でできるだけ休憩、人とのふれあいの機会をお膳立て
(椅子など準備できれば負担にならない程度で。簡単なシートなど貸し出す)
- ・参加者(来てくれた方)に市の「福知山 KENPOS」ポイントを付与する
(乳幼児からポイント対象とする。体育館等で遊べばポイントを追加するなど)
- ・御朱印帳のような簡単な公民館訪問帳を作り渡す
(8館共通で運用し公民館と地区巡りを行ってもらい地域を超えての交流を)
- ・一人でも二人でも開催を継続する(そこに行けば誰かに会える)
- ・職員の対応は参加者に先ず挨拶、言葉をおかわすことを優先にする。
(業務負担を少なく。参加者の自主性に任す)

狙いは公民館に先ず立ち寄ってもらうことを優先に、散策のお手伝い程度でスタートしてみる。「福知山 KENPOS」の付与については色々工夫の余地があると思われるが、例えばスマホの苦手な方でもその場でポイント申請方法をお手伝いしながら会話に入るなど、また乳幼児など体育館で自由に遊んでもらうなどちょっとしたきっかけで人とのふれあいの場が提供できるのではないかと。

なじみができていけば館内イベントの紹介や参加のお手伝いなど少し踏み込んでハードルを上げることなく気楽に参加できる雰囲気づくりを心がけて進め、参加者には SNS の発信など依頼し、裾野を拓げることも大切ではと考える。

(4) こどもを中心としたリーダー作りをする

全国的に少子化が加速する中、色々と試みてはいるものの少子化対策に明るい兆しはほとんど見受けられないのが現状の中、福知山市は全国的にも出生率が高い市であり、そんな福知山市なので今以上に子どもを中心としたイベントを市等の公共機関が中心となって開催すべきではないかと思う。例えば、スポーツ・教養・アド

ベンチャーなど、「子育てプロジェクト（案）」と称して進めてはどうかと提案する。

ア 協力者を仰ぐ、安心できる環境づくり

ボランティアを募る、対象者は、こどもの親や身近な人で、子どもの為ならば積極的に協力してくれる方々を募る。子どもを見る親たち、またそばに親たちがいる子どもたち、双方にとって安心できる場が築け、子どもたちは一生懸命協力している親たちの姿を目の当たりにして誇らしげな思いになることでしょう。また、身内の人のみならず、大学生・高校生・中学生やお仕事をリタイアされた方々に協力いただくことも大変重要なポイントである。

イ 市全体の取り組みとして子どもを育む

市挙げて取り組む姿勢に理解をしてもらい、スポンサー企業を募り資金援助して貰う、或いはネーミングライツのような仕組みもとり入れる。大人たち（中学生含む）が、ボランティア活動に参加することにより、自尊心が生まれおのずとリーダー的な人が出てくると思う。これは、子どもにも影響する。

ウ 顕彰制度や活動参加への啓発

協力した人や企業に対して、福知山市市民憲章推進協議会等で表彰や活動紹介など広くその活動を顕彰することも重要ではないか。また、積極的にボランティア活動に参加した人に対して福知山で生活をすれば何か特典が得られるシステムがあれば尚良いと思う。また、京都府が「子育て環境日本一」を目指した活動をしていることもあり、福知山市がそのモデル市となれば、福知山市で子育てをしたい人が増えればとても活気あふれる福知山市になると思う。

エ 開催するイベントについて

「子育てプロジェクト（案）」と称して、どのようなイベントにしたいか市民からアンケートをとり、このアンケートの集計についてもボランティアを募る。極力人件費にはお金をかけず、イベントそのものにお金をかける。資金調達についても福知山市独自の方法を考える。

(5) 地区公民館やNPOへの活動支援を行う

ア 地区公民館への支援

市では地区公民館が組織され運営されており、地区の自主運営で最も身近な公民館として存続し今日まで継承されている。近年この地区公民館など廃止されている大中市などが見受けられるなかで、市の地区公民館組織は言わば市の強みでもあり、地域公民館との関係性は行事の推進にとどまらず意義のあるところである。

地域や地区の課題解決に於いては、きめ細かく実態がわかる地区公民館（自治会）がとりわけ重要で、その地区ならでの特徴に合わせながらの活動になっている。そのなかで住民自らが、地区の課題を考える会など、小さなコミュニティ範囲内で活動を試みる動きなどもある。昨今の地区社会を取り巻く状況を鑑み、課題解決に向けての動きになっている。ただ、地区公民館の活動には自治会との関係性でやや自治会活動に住民としては重きを置くことになり、社会教育的な活動としての地区公民館の立ち位置は、地域公民館行事のお手伝い的になりがちで、地区課題を考える場としてはやや弱いと思われる。その中にあっても地区の課題に関する問題意識は少なからずある。具体的な組織などはまだその途上であるが、このような活動に対して地域公民館（市）から活動支援を強化して自主性を尊重しながら、助言や成功事例の紹介、アドバイス、開催の場作りなど積極的にアプローチして課題を共有しながら、人材育成を進めてはどうだろうか。

イ NPO 活動への支援や相談窓口の設置

社会教育提供者は行政が中心であるが近年は、NPO や大学、企業などが社会教育機会を提供するなど多様化が進んでいる。今回の事例で取り上げた NPO の活動事例も行政との協働で行われたもので、その経緯を踏まえて「地域づくり参画相談所（仮称）」の設置。

- ・地域の課題に気づいた人が気軽に相談できる窓口。
- ・市民活動に利用できる公的助成金などの紹介とアドバイス。
例「福知山市まちづくり活動応援事業」「京都府女性活躍応援事業補助金」など、ワンストップで紹介し、アドバイスを行う窓口。
- ・福知山版「子どもゆめ基金」のような助成金を検討する。
- ・クラウドファンディングなどの使い方講座開設。

以上、人を育む社会教育のあり方について述べてきた、まとめとして次の5項を第20期社会教育委員会議の提言とする。

- (1) 地域公民館講座に人材育成を主眼とした継続的な講座を開設する
- (2) 公民館活動を通じた人材発掘をする
- (3) 公民館を人とのふれあいの場として身近に感じてもらうようにする
- (4) こどもを中心としたリーダー作りをする
- (5) 地区公民館や NPO への活動支援を行う

今回は具現化されている事例を基にして、社会教育における人材育成について協議を続けてきた。事例から多くの学ぶべきところを如何にこれからの社会教育施策に活かしているか、具体的な（案）となるとなかなか難しいところでもあり、当初から本テーマの難

しは十分認識していたが、コロナ禍を経験したこの時期に敢えて取り上げたところである
提案では人材育成に即効性のある提言には及ばずとも多くの教訓を事例から学べるのではないかと考える。本文を読んでいただく皆さんと「事例から学ぶべきところ」を共有していただき、関係する社会教育施策に少しでも反映していただければ幸いである。

5. あとがき

第20期の社会教育委員会での提言は「これからの人材育成」に着目した。
それぞれの委員が抱えている課題でもあり漫然とした内容だったので、まずは各委員が現在の活動を始めるきっかけを原稿に書き出し、活動の動機から現在の活動、そしてこれからの人材育成を考えた。

各委員の活動内容を初めてじっくりと聞くことで福知山市内の活動団体の歴史や団体の思いを学んでいけたことは各委員の学びに繋がり、自らのふりかえりにもなった。

各団体や組織の現状を知り、更にネットワークが広がることで個人の成長はもちろん団体としてこれからの人材育成にも繋がり、まちづくりやまちの活性化に結びついていくと感じるとともに、地域課題に対して積極的に取り組んでくれる人をどう育てていくか難しい課題でもある。

多様な経験をもつ各委員のそれぞれの事例から人物像を読み解いていくとことで具体的な社会教育施策への提言としたい。

福知山市社会教育委員会議のこれまでの提言等

昭和59年6月1日	福知山市社会教育委員会設置
昭和61年3月31日	「福知山市の将来を見通した社会教育のあり方に関し、その必要な施策・改革について」提言（第1期）
平成2年3月26日	「福知山市の生涯教育推進体制確立のための総合的かつ効果的な行政施策のあり方について」答申（第3期）
平成4年5月19日	「福知山市生涯教育における青少年健全育成のあり方について」答申（第4期）
平成6年5月19日	「生涯学習におけるボランティア活動のあり方について」提言（第5期）
平成8年3月	「生涯学習社会における社会教育の振興方策について」提言（第6期）
平成9年4月14日	『「生涯学習社会における社会教育の振興方策について」の具体的な方策について』意見書（第7期）
平成10年3月	「今、求められている生涯学習プログラムについて」提言（第7期）
平成11年10月26日	『生涯学習社会における福知山市の「心の教育」のあり方について』答申（第8期）
平成12年4月10日	『生涯学習社会における福知山市の「心の教育」のあり方について』答申に関する補足意見（第8期）
平成14年5月1日	「乳幼児期の子育てを充実させるための提言」（第9期）
平成16年5月25日	「生涯学習社会における高齢者の役割と生きがいのあり方について」提言（第10期）
平成17年8月10日	「安心して子育てができる地域社会づくりー高齢者の力を子育て支援にー」提言（第11期）
平成20年1月30日	「合併前の各市町がそれぞれに守りそだててきた、歴史と文化・地域の特色を活かした教育施設や豊かな人材を活用した生涯学習のあり方」答申（第12期）
平成22年5月28日	「社会の変化に対応した、地域社会の維持・発展方策について」答申（第13期）
平成24年3月14日	『「若者の声が響くまち」を目指して』提言（第14期）
平成26年3月25日	『「若者の声が響くまち」を目指して』具体的な取組提案提言（第15期）
平成28年3月25日	「家族だんらんの日」～市民総がかりで推進「地域だんらん」へ～提言（第16期）
平成30年3月28日	「社会教育活動の現状課題と必要性の検討～公民館役員へのアンケート調査などから～」調査・研究報告（第17期）
令和元年12月25日	社会教育活動の現状課題とあり方の検討～公民館を事例として～提言（第18期）
令和4年3月22日	社会教育活動における情報の活かし方～情報の共有を通じて地域のつながりを深める～提言（第19期）

第20期 福知山市社会教育委員名簿

令和4年6月1日～令和6年5月31日

氏名	備考	氏名	備考
上原 健	議長	森川 藏	
足立 喜代美	副議長	田和 浩	
瀬田 裕史		上垣 裕子	
江上 直樹		蒲 善光	
佐々木 康子			